# AtermIT40/D　追加機能の説明と使い方

2000 年 1 月

【ソフト名】　AtermIT40/D 用ファームウェア　Ver.1.40
AtermIT40/D 用らくらくユーティリティ一式
・ Windows 用［32bit 版］(Windows98/95/NT4.0 対応)　Ver.1.20
・ Windows 用［16bit 版］(Windows3.1 対応)　Ver.1.20
・ Macintosh 用　Ver.1.20
【著作権者】　日本電気株式会社
【対応機種】　AtermIT40/D
【対象ユーザ】　AtermIT40/D をご使用のお客様
【作成方法】　Windows 用　［32bit 版］　自己解凍形式
Macintosh 用　HQX 方式
【転載条件】　転載禁止

## もくじ

1. ファームウェアのらくらくバージョンアップ方法

2. サービス名称の変更について

3. キャッチホン・ディスプレイを使う

3.1　Windows98/95/NT4.0 で設定する
3.2　Macintosh で設定する
3.3　電話機で設定する（らくらくテレホン設定）
3.4　AT コマンドで設定する

4. 情報通知サブアドレスの機能番号の変更について（らくらくテレホン設定）

5. ボタン操作でバージョンを表示させせる

6. CTI 発信を使う

## 1. ファームウェアのらくらくバージョンアップ方法

《注意》ファームウェアのバージョンアップをおこなう前に、下記のユーティリティをダウンロードしておいてください。

・**IT40 らくらくユーティリティ一式**

| | | |
|---|---|---|
| **Windows 用［32bit 版］** | **(Windows98/95/NT4.0 対応)** | **Ver.1.20** |
| **Windows 用［16bit 版］** | **(Windows3.1 対応)** | **Ver.1.20** |
| **Macintosh 用** | | **Ver.1.20** |

### ◆ IT40 らくらくバージョンアップの起動方法

(1) 本装置は、RS-232C ケーブルでパソコンのデータポートに接続してください。
(2) 他のプログラムが本装置を使用している場合は、そのプログラムを終了してください。また、回線を使用中ならば切断してください。
(3) IT40 らくらくバージョンアップ以外のプログラムは、なるべく終了させてください。
(4) ［スタート］→［プログラム］→［AtermIT40 ユーティリティ］から［IT40 らくらくバージョンアップ］を選ぶと、IT40 らくらくバージョンアップが起動します。

IT40 らくらくバージョンアップが起動しない場合

本装置が正しくパソコンに接続されていないときや、他のプログラムが本装置を使用中のとき（通信中や IT40 らくらくユーティリティの起動中など）は、最初の「らくらくバージョンアップにようこそ！」画面から［次へ］ボタンのクリックによって次の画面に進もうとすると、下記のようなメッセージが表示されます。
「AtermIT が接続されているポートが見つかりません。らくらくバージョンアップの実行を中断し、AtermIT とパソコンを接続するケーブルが接続されているかどうか、AtermIT の電源が ON になっているかどうか、他のソフトで AtermIT を使用していないかどうかをご確認ください。」このメッセージに従って、本装置の状態を確認してください。

### ◆ IT40 らくらくバージョンアップの使い方

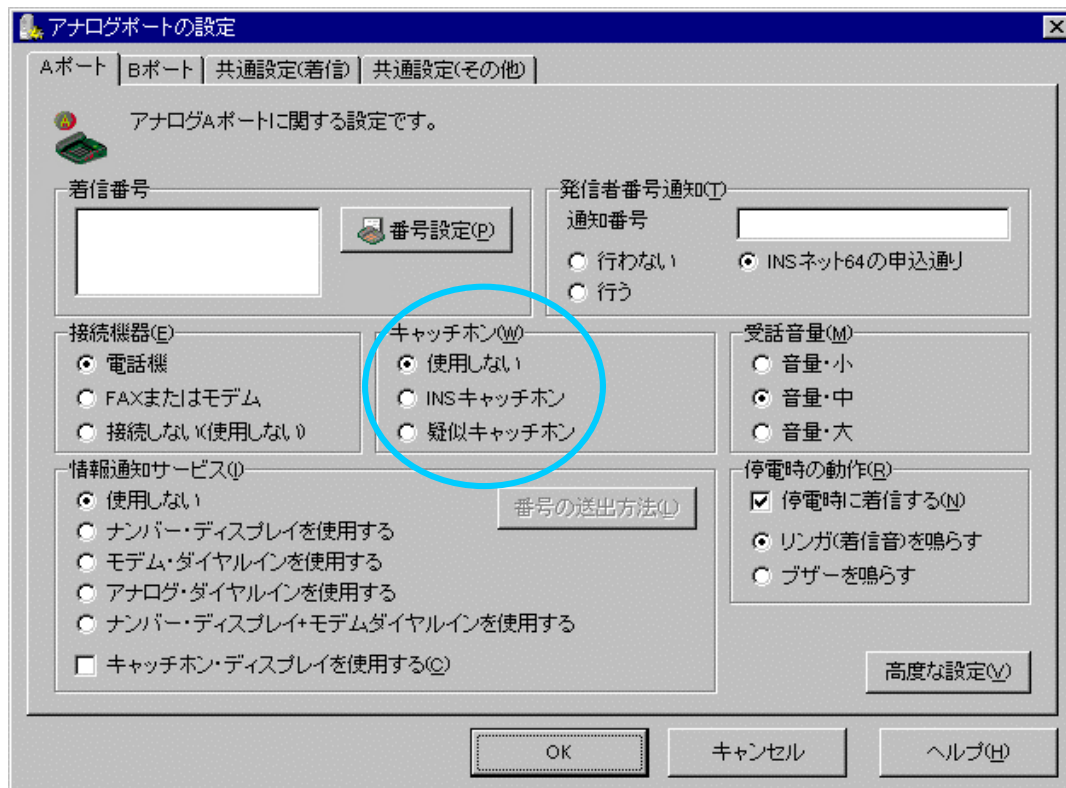
画面の案内に従って、ファームウェアのファイルを選択し、［実行］ボタンをクリックするだけで、本装置をバージョンアップすることができます。
バージョンアップの進行状況は、画面上にインジケータで表示されます。

《注意》・バージョンアップ中は、絶対に本装置の電源を切らないでください。
不用意に電源を切ると本装置が故障する恐れがあります。
・バージョンアップ中は、他のプログラムを使用しないでください。他のプログラムを同時に動かすと、バージョンアップが失敗することがあります。

### ◆ IT40 らくらくバージョンアップの終了方法

バージョンアップ中に、プログラムを終了させることはできません。
バージョンアップ処理が終了するまでお待ちください。
バージョンアップ処理が終了すると、［バージョンアップ終了］画面になります。
［終了］ボタンをクリックすると IT40 らくらくバージョンアップが終了します。

## 2. サービス名称の変更について

前バージョンまで、「コールウェイティング」と呼んでいたサービス機能を、今回から「キャッチホン」という名称に変更いたしました。
従って、らくらくユーティリティでの表示も下記のように変更いたしました。

## 3.　キャッチホン・ディスプレイを使う

キャッチホン・ディスプレイは、通話中に新たな相手から着信した場合、相手の電話番号を本装置やキャッチホン・ディスプレイに対応したアナログ通信機器のディスプレイに表示してお知らせする機能です。INS ナンバー・ディスプレイによる着信時の表示を、キャッチホンのときにも働くようにしたものと考えれば良いでしょう。

＜利用条件＞

| | INS キャッチホンを利用する場合 | 疑似キャッチホンを利用する場合 |
|---|---|---|
| 追加契約 | INS ナンバー・ディスプレイ<br>INS キャッチホン | INS ナンバー・ディスプレイ |
| 追加料金 | 両方のサービスの付加サービス使用料 | 付加サービス使用料 |
| 利用条件 | キャッチホン・ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。 | キャッチホン・ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。 |
| その他 | アナログ A，B ポートで使用できます。 | アナログ A，B ポートで使用できます。 |

＜動作＞

① 通話中に新たな相手から電話がかかってくると受話器から「ププッ」という割込み音が聞こえます。
② 「ププッ」のあと「ピッ」という割込み音が聞こえると、AtermIT とキャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器のディスプレイに電話をかけてきた相手の電話番号が表示されます。
③ フッキングして新たな相手と通話します。(この間は、最初の通話相手には保留音が流れます)
④ 再びフッキングすると、最初の相手と通話できます。フッキングする度に通話相手を切り替えることができます。

＜設定方法＞

・キャッチホン設定で、「INS キャッチホン」または「疑似キャッチホン」を選択します。
・情報通知サービス設定で、「ナンバー・デイスプレイを使用する」または「ナンバー・デイスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する」を選択します。
・キャッチホン・ディスプレイ設定で、「使用する」を選択します。

Windows98/95/NT4.0 での設定　→　P.5
Macintosh での設定　→　P.6
電話機での設定　→　P.7
AT コマンドでの設定　→　P.8

＜補足説明＞

・キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器の機種によっては、電話をかけてきた相手の電話番号が正常に表示されない場合があります。
・キャッチホン・ディスプレイの割込み音は「ププッ」のあと「ピッ」と鳴ります。「ピッ」という割込み音と通話が重なると、１秒程度通話が途切れて電話番号が正しく表示されないことがあります。
・お出かけ設定の「おやすみモード」「フラッシュモード」、または停電時動作の「ブザーを鳴らす」のいずれかを設定していると、電話番号が正しく表示されないことがあります。
・内線通話中に外線から電話がかかってきたときは、キャッチホンの設定に関わらずキャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器のディスプレイに電話をかけてきた相手の電話番号が表示されます。
・キャッチホン・ディスプレイがかかってきている最中は、らくらくユーティリティの［OK］や［登録］ボタンをクリックしないでください。
・１つのアナログポートに複数のアナログ通信機器を接続している場合は、キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器が接続されていても正常に電話番号が表示されません。

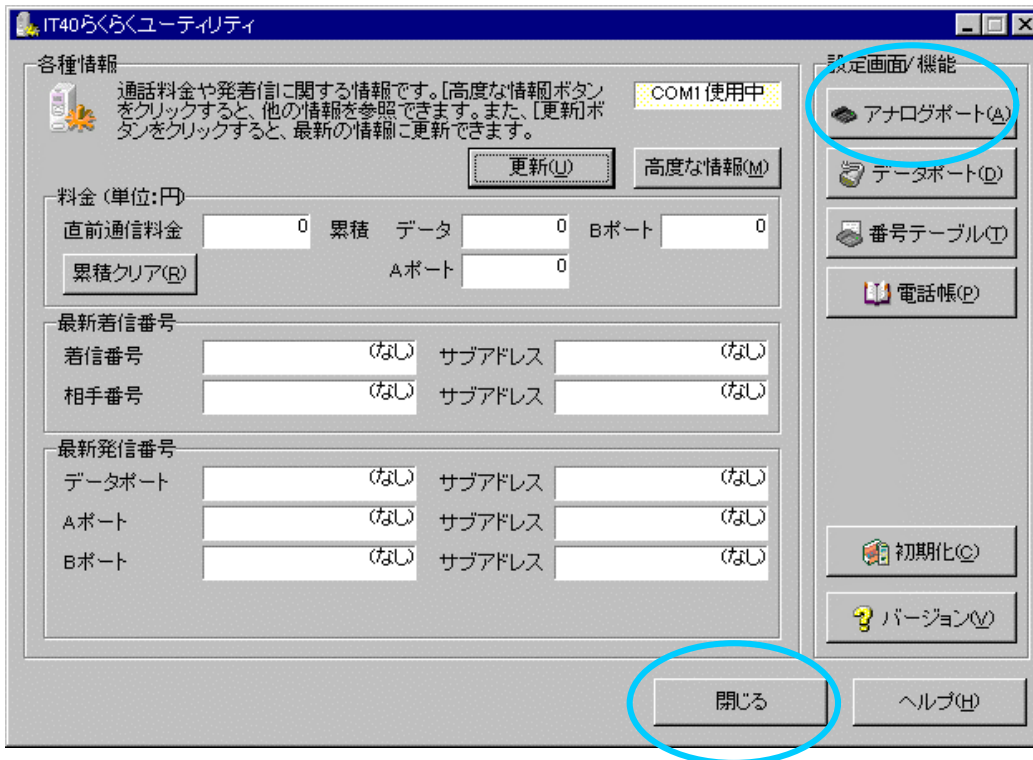
### 3.1　Windows98/95/NT4.0 で設定する

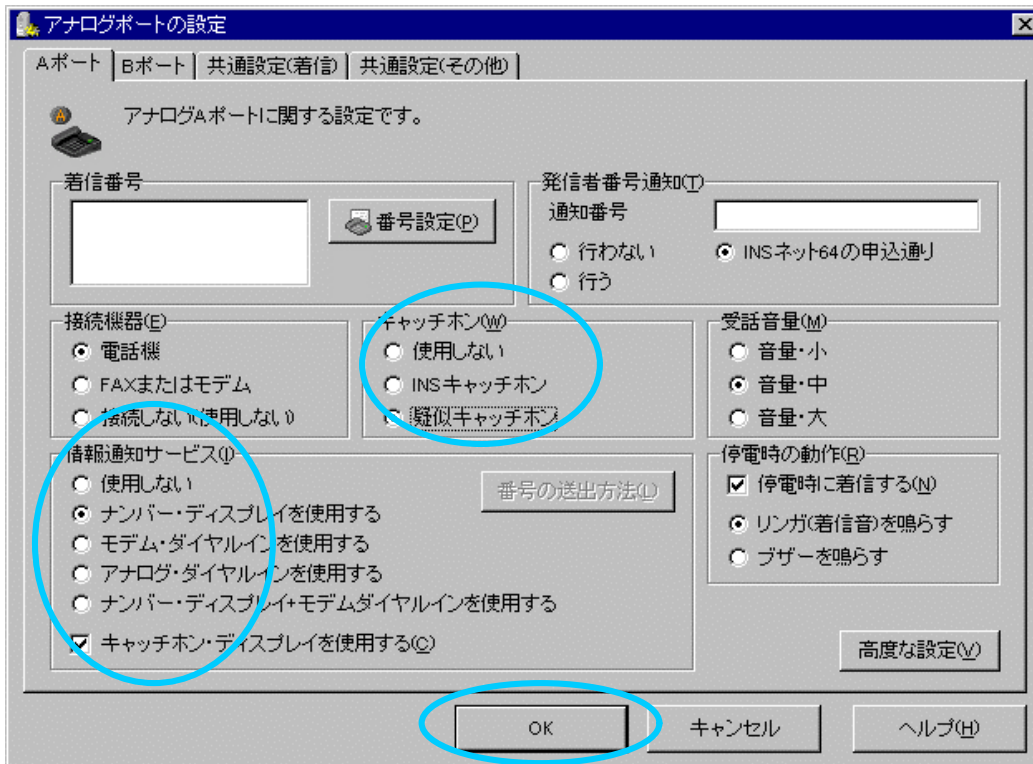
「IT40 らくらくユーティリティ」を使った設定のしかたを説明します。

① 他のプログラムが、本装置を使用している場合は、それらを終了させます。

② Windows の「スタート」ボタンをクリックし、［プログラム］→［AtermIT40 ユーティリティ］→［IT40 らくらくユーティリティ］の順に選択します。

③ IT40 らくらくユーティリティが起動し、「IT40 らくらくユーティリティ」画面が表示されます。

**「IT40 らくらくユーティリティ」画面**

④［設定画面／機能］の「アナログポート（A)」をクリックします。
「アナログポートの設定」画面が表示されます。

「アナログポートの設定」画面（A ポートの例）

⑤［キャッチホン（W)］（初期値：使用しない）の［INS キャッチホン］または［疑似キャッチホン］をクリックします。
⑥［情報通知サービス（I)］（初期値：使用しない）の［ナンバー・ディスプレイを使用する］または［ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する］をクリックします。
また、［キャッチホン・ディスプレイを使用する］もクリックします。
⑦ アナログ B ポートにも設定するときには、［B ポート］タブをクリックし、⑤⑥を設定してください。
⑧ 設定が終了したら、［OK］ボタンをクリックします。
「IT40 らくらくユーティリティ」画面が表示されます。
⑨［閉じる］ボタンを必ずクリックし、設定内容を本装置のフラッシュメモリに書き込んでください。

## 3.2　Macintosh で設定する

「IT40 らくらくユーティリティ」を使った設定のしかたを説明します。

＜らくらくユーティリティの起動のしかた＞

［IT40 ユーティリティ］フォルダ中の［IT40 らくらくユーティリティ］アイコンをダブルクリックします。IT40 らくらくユーティリティが起動し、「メニュー（簡易設定)」画面が表示されます。

＜各画面の設定のしかた＞

- 設定する機能を選択し、設定します。
- 文字入力は入力欄をクリックして、キーボードから入力します。
- 設定内容を登録します。（［OK］ボタンをクリックして登録完了）

＜設定が終わったら＞

すべての登録を終えて「IT40 らくらくユーティリティ」を終了するときは、必ず「IT40 らくらくユーティリティ」画面で［閉じる］ボタンをクリックして本装置のフラッシュメモリに書き込みます。
これで、本装置の電源を切っても設定が消えません。

## 3.3　電話機で設定する（らくらくテレホン設定）

**本装置に接続している電話機を使った設定のしかたを説明します。**

**①　キャッチホン設定で、「1：INS キャッチホン」または「2：疑似キャッチホン」を選択します。**

**受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【下記】【＊】【0】【2】【＊】【下記】【＃】【＃】→受話器をおく**

| | |
|---|---|
| 1:A ポート | 0:使用しない（初期値） |
| 2:B ポート | 1: INS キャッチホン |
| | 2:疑似キャッチホン |

> **《注意》電話機能を持つファックスやモデムにキャッチホン設定した場合、通信中に着信があると通信エラーになりますのでご注意ください。**

**②　情報通知サービス設定で、「1：ナンバー・ディスプレイ」または「4：ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン」を選択します。**

**受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【下記】【＊】【1】【0】【＊】【下記】【＃】【＃】→受話器をおく**

| | |
|---|---|
| 1:A ポート | 0:使用しない（初期値） |
| 2:B ポート | 1:ナンバー・ディスプレイ |
| | 2:モデム・ダイヤルイン |
| | 3:アナログ・ダイヤルイン |
| | 4:ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン |

**③　キャッチホン・ディスプレイ設定で、「1：使用する」を選択します。**

**受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【下記】【＊】【1】【8】【＊】【下記】【＃】【＃】→受話器をおく**

| | |
|---|---|
| 1:A ポート | 0:使用しない（初期値） |
| 2:B ポート | 1:使用する |

## 3.4　AT コマンドで設定する

キャッチホン・デイスプレイを設定するためのＡＴコマンドについて説明します。

| ＄A | アナログ A ポートの設定と表示 |
|---|---|
| 機能 | アナログ A ポートの設定と表示をします。 |
| 書式 | AT$A<パラメータ 1><=パラメータ 2> |
| パラメータ | <パラメータ 1><パラメータ 2><br>2:キャッチホン設定<br>2=0:使用しない（初期値）<br>2=1:INS キャッチホン<br>2=2:疑似キャッチホン<br>11:情報通知サービス設定<br>11=0:使用しない（初期値）<br>11=1:ナンバー・ディスプレイ<br>11=2:モデム・ダイヤルイン<br>11=3:アナログ・ダイヤルイン<br>11=4:ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン<br>18:キャッチホン・ディスプレイ設定<br>18=0:使用しない（初期値）<br>18=1:使用する |
| 入力例 | AT$A2=2 |
| 補足 | 他のパラメータについての記述は省略しました。 |

| $B | アナログ B ポートの設定と表示 |
|---|---|
| 機能 | アナログ B ポートの設定と表示をします。 |
| 書式 | AT$B<パラメータ 1><=パラメータ 2> |
| パラメータ | $A と同じです。 |
| 入力例 | AT$B2=2 |
| 補足 | 他のパラメータについての記述は省略しました。 |

## 4.　情報通知サブアドレスの機能番号の変更について（らくらくテレホン設定）

本装置に接続している電話機を使った設定の中で、「情報通知サブアドレス」の機能番号を変更いたしました。新しい設定のしかたを説明します。

受話器をあげる→【＊】【＊】【１】【＊】【下記】【＊】【１】【１】【＊】【下記】【＃】【＃】→受話器をおく

1:A ポート　　0:ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽを付ける

2:B ポート　　1 ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽを付けない（初期値）

## 5.　ボタン操作でバージョンを表示させる

AtermIT 前面のボタン（MENU、SELECT、ENTER）を使って、AtermIT のディスプレイにファームウェアのバージョンを表示できます。

①　MENU ボタンを押します。

| １：チャクシンリレキ |
|---|

②　SELECT ボタンを４回押します。

| ５：バージョン |
|---|

③　ENTER ボタンを押します。
　　現在のバージョンが表示されます。

| バージョン　１．４０ |
|---|

④　MENU ボタンを押します。
　　通常の表示に戻ります。

## 6.　CTI 発信を使う

CTI（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことです。
AtermIT では、既に「CTI 情報出力」を搭載しておりますが、新たに「CTI 発信」が追加されました。
データポートに接続したパソコンから AT コマンドを入力し、アナログポート発信をします。

＜発信手順＞

①　パソコンで以下の AT コマンドを入力します。

　　ＡＴ！Ｄｎ；着信番号／着信サブアドレス
　　　　↑　　↑　　↑
　　1:A ﾎﾟｰﾄ　最大 32 桁　最大 19 桁
　　2:B ﾎﾟｰﾄ

　　AT コマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が鳴ります。
　　着信音は、３分間鳴り続けます。

②　着信音が鳴っている間に電話機の受話器をあげます。
　　AT コマンドで入力した着信番号に自動的に発信します。
　　着信音が鳴っている間に受話器をあげないと、呼び出し音は取り消されます。
　　また着信音が鳴っている間に発信を取り消す場合は、以下の AT コマンドを入力します。

　　ＡＴ！Ｃｎ
　　　　↑
　　1:A ﾎﾟｰﾄ
　　2:B ﾎﾟｰﾄ

③　相手が出たら通話します。

《注意》・他のプログラムが本装置のデータポート使用中は、CTI 発信できません。
　　　　・CTI 発信によるアナログ通信中は、データポートでの発着信ができません。